

# スポーツチームにおける経験評価・満足度・関与・動機づけの関連性 —大学野球チームの組織風土に着目して—

土田 翔平 (競技スポーツ学科 スポーツビジネスコース)  
指導教員 山本 達三

キーワード：クラブ中心の統制、イノベーションの受け入れ、心理欲求の充足

## 1. 緒言

松本 (2015) は、部活動経験評価と部活動満足度に、関与を媒介変数として組み込む因果モデルを提示し、部活動経験評価が部活動満足度へ正の直接効果を与えているものの、関与を経由した間接効果の方が部活動満足度に大きな影響を与えることを指摘した。しかし、部活動満足度に影響を与える要因は他にも存在する可能性がある。

樋口 (1996) は、スポーツチームが成果を上げるためには、組織を構成する選手の動機づけをいかに高めるかが重要な課題であることを示し、組織風土が深く関わっていることを指摘している。また、Deci & Ryan (2002) は、動機づけを説明する内容として自己決定理論を提案し、自律性、有能感、関係性という心理的欲求が動機づけに正の影響を与えることを提示している。

本研究は、部活動経験評価、部活動満足度、関与に、組織風土、動機づけ (内発的・外発的動機づけ)、心理欲求 (自律性・有能感・関係性) を加え、大学野球選手の満足度を取り巻く諸要因の関連性と構造を明らかにすることを目的とする。

## 2. 研究方法

大学硬式野球部員を対象として、滋賀県B大学129票、京都府H大学50票、奈良県N大学53票の全232票を回収した。

調査内容は、基本属性、組織風土・部活動経験評価・部活動満足度・関与・スポーツ動機づけ (内発的・外発的動機づけ)・心理欲求充足尺度を用いたアンケート調査を行った。

## 3. 結果

一元配置分散分析の結果から組織風土をクラブ中心の統制群、イノベーションの受け入れ群の2群に分類し、各要因の関連性を分析した。表1は、満足度を従属変数として重回帰分析を行った結果である。クラブ中心の統制群では、経験評価が1%水準で有意な関連を示し、イノベーション

の受け入れ群では、内発的動機づけが1%水準で有意な関連を示した。先行研究では、関与が媒介していることが示唆されていたことから共分散構造分析を行った結果、関与からの影響はわずかであった。関与と動機づけには強い相関と多重共線性が確認されたため低中高関与群の3群に分類する調整変数として、各要因の平均値の比較を行ったところ (表2)、ほとんどの要因において1%水準で有意な差が認められた。

表1 組織風土別の満足度に対する重回帰分析

	全体	クラブ中心の統制群	イノベーションの受け入れ群
満足度 (R <sup>2</sup> )	.742**	.729**	.785**
経験評価	.308**	.352**	.170*
関与	.231**	.265*	.166
内発的動機づけ	.265**	.171*	.477**
外発的動機づけ	-.106*	-.137*	-.076
自律性	.044	.051	.094
有能感	-.063	-.031	-.114
関係性	.247**	.258	.207*

\*p<.05, \*\*p<.01

表2 関与低中高の3ステージでの各要因の平均値の比較

因子	関与低 (n=75)		関与中 (n=87)		関与高 (n=70)		効果量
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
経験評価	2.74	0.51	3.16	0.41	3.82	0.44	.23 (大)
満足度	2.76	0.52	3.39	0.49	4.01	0.47	.25 (大)
内発的動機づけ	2.72	0.7	3.49	0.53	4.09	0.41	.24 (大)
外発的動機づけ	2.84	0.57	3.22	0.54	3.51	0.69	.03 (小)
心理欲求	2.5	0.57	2.96	0.59	3.62	0.58	.14 (中)
組織風土	3.06	0.48	3.21	0.41	3.6	0.44	.04 (小)

\*p<.05, \*\*p<.01

## 4. 考察

クラブ中心の統制群では経験評価が満足に高い関連を持ち、努力が認められると選手の満足度も高まることが推測できる。イノベーションの受け入れ群では、内発的動機づけが満足に高い関連を持ち、選手主体で活動できることや選手間の相互作用などが満足度に影響を与えていた。

### [参考文献]

樋口康彦 (1996) スポーツ集団における組織要因とメンバーの達成動機との関連について、実験社会心理学研究, Vol. 36, No. 1: 42-55.